

## 事前評価表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業計画期間	平成31年度～平成35年度（5年間）												
事業実施地区名 （都道府県名）	（かみかわなんぶ） 上川南部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 かみかわちゆうぶ 上川中部森林管理署 かみかわなんぶ 上川南部森林管理署												
事業の概要・目的	<p>本計画区は、北海道のほぼ中央部に位置し、全国森林計画で定める石狩川流域のうち上川総合振興局管内南部の2市9町1村で構成されている。</p> <p>対象とする国有林面積は275千haであり、冷温帯から亜寒帯域に位置している。その8割がトドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ等の針葉樹と、ミズナラ、シナノキ、カンバ類等の広葉樹からなる針広混交林、及び針葉樹を主体とする天然林が占めており、大雪山森林生態系保護地域、大雪原生林生物群集保護林等学術的に貴重な森林も多い。</p> <p>森林の2割は主に昭和30年代以降に造成されたトドマツ・カラマツ等の人工林で、厳しい気象条件の影響等から、高標高地等の人工林等においては、期待した成長が見込めず、天然広葉樹との混交林化が進んでいる林分も見受けられる。そのうち間伐の対象となる林分が約8割となっており、今後は主伐対象となる林分も増え、併せて更新面積の増加が見込まれることから、森林整備の重要性が高くなっている。</p> <p>本計画区内の森林については、大部分が水源かん養保安林となっており、流域内のみならず、下流域である道央地域の水源地として、また、基幹産業である農業の振興に資する観点で重要な役割を担っていることから、水源涵養の役割の発揮が求められている。</p> <p>一方、本計画区は十勝岳をはじめとする道内有数の火山地帯であり、大正15年の十勝岳火山泥流災害をはじめ数次の火山災害が発生しており、森林による泥流緩衝効果も期待されることから、山地保全の役割の発揮も強く求められる地域である。</p> <p>林業・木材産業は、地域の豊富な木材資源を背景として、農業に次ぐ第一次産業として発展してきたところである。特に中核都市である旭川市は、木製品・パルプ等の木材加工業が発達しており、道北地域の木材産業の拠点となっている。今後も木材の安定供給を通じ、地域産業の振興に寄与することが期待されている。</p> <p>また、本計画区では大雪山系、夕張山地を中心として優れた山岳景観を有し、大雪山国立公園、富良野芦別道立自然公園が指定されており、山岳、温泉等の観光資源に恵まれていることから、道内外から多くの観光客が訪れている。</p> <p>本事業は、これまでの評価結果を踏まえ、地域の期待に応えるとともに、伐採と造林の一貫作業や植付効率の向上等の効果が期待されるコンテナ苗の導入等を図り、低コストで効率的な作業システムを確立しながら、地球温暖化防止にも積極的に寄与するために必要な植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備を推進するための路網整備を実施する。</p>														
	<p>主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>611 ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td>19,731 ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>49.4 km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td>5.8 km</td> </tr> </table> <p>総事業費</p>	森林整備	更新面積	611 ha		保育面積	19,731 ha	路網整備	開設延長	49.4 km		改良延長	5.8 km	<p>5,792,515 千円（税抜き 5,363,440 千円）</p>	
森林整備	更新面積	611 ha													
	保育面積	19,731 ha													
路網整備	開設延長	49.4 km													
	改良延長	5.8 km													

費用便益分析	総 便 益 (B)	35,681,268 千円
	総 費 用 (C)	7,629,776 千円
	分析結果 (B/C)	4.68
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であると考える。	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 本地域は、大半が水源かん養保安林に指定されており、地域の水源地としての役割や、地域の基幹産業である農業等に資する観点から、水源涵養の役割を果たすことが期待されている。また、火山や急峻な地形もあることから、山地保全の役割が求められている地域であり、地球温暖化防止対策や広葉樹を含む木材の安定供給と有効活用のほか、保健文化機能の維持等に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。</li> <li>・ 効率性： 現地の地形・地質状況に適した工種及び作業仕様での路網の開設・改良によって森林整備実施箇所へのアクセスを向上させ、森林整備においても現地状況に応じた更新・保育作業を効率的に行うことによりコストの増加を抑えていくこととしており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。</li> <li>・ 有効性： 本事業により、森林が健全な状態に維持され、水源涵養、山地保全、地球温暖化防止等の公益的機能の発揮が期待される。また、効率的な森林整備により、地域の基幹産業である農業の振興にも資することから、事業の有効性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効率的に計画されていると認められる。</p>	

**便 益 集 計 表**  
(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業  
施行箇所：上川南部森林計画区

都道府県名：北海道  
(単位:千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養 <sup>かん</sup> 便益	洪水防止便益	7,209,334	
	流域貯水便益	2,668,376	
	水質浄化便益	5,551,628	
山地保全便益	土砂流出防止便益	9,881,840	
環境保全便益	炭素固定便益	1,929,431	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	2,666,622	
	木材利用増進便益	2,026,864	
	木材生産確保・増進便益	3,028,130	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	3,062	
	森林管理等経費縮減便益	77,658	
	森林整備促進便益	638,323	
総 便 益 (B)		35,681,268	
総 費 用 (C)		7,629,776	千円
費用便益比	$B \div C = \frac{35,681,268}{7,629,776}$		= 4.68

上川南部森林計画区的位置図



凡 例	
国 有 林	
主 要 山 岳	
鉄 道	
森林計画区界	
市 町 村 界	
森林管理署等	

